

Visual Basic 6.0  
ユーザーのための

# Visual

これだけ違う

「この際だからC#」という

## Visual BasicとVisual C#

開発環境の違いとプログラミングの差を見る

瀬戸 遥

SETO, Haruka

<http://www.big.or.jp/~seto/>

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA006682/>

### Level



### Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:
  - Visual Studio .NET 2003
  - Visual Basic 6.0

### Samples

### はじめに

Visual C# 2003 (以下C#) のIDEは、Visual Basic 6.0 (以下VB) の統合開発環境とは (当たり前ですが) 相当違います。同じ会社が作成した同じRAD環境とはいえ、言語も思想も異なるため、開発環境としての機能もそれ相応に異なっています。

とはいえ、Windowsアプリケーションを開発するときの基本は、

- ・フォームにコントロールをドラッグ&ドロップ
- ・処理ルーチンを記述する
- ・デバッグしてコンパイルして配布

であることに変わりはありません。その一連の流れをサポートするのが開発環境です。したがって、Visual Studio 6.0でVBを使って開発していた方々が、Visual Studio .NET 2003へと移行した場合、最初のうちこそOffice製品のバージョンが上がったときのような違和感があるかもしれませんが、すぐに新しい環境に慣れ親しむことができるはずです。

そこで、本稿でははじめてVisual Studio .NET 2003 (以下VS2003) の上でC#を使用するVBユーザーの方々に、IDEのどこにどのような機能があるのか、また、VBとはどのように違うのか、を紹介してゆきます。

特集  
1-1

# VB6.0開発者に贈る

# Visual C#超入門

## フォームエディタ (フォームデザイナー)

VBで「フォームエディタ」と呼ばれていたものは、C#では「フォームデザイナー」と呼ばれています。どちらもフォームをデザインするエディタですから、機能的には変わりません。

しかし、フォームデザイナーに付随するツール類は大きく変わっています。それぞれひとつずつ見てゆきましょう。

## ツールボックス

ツールボックスは大きく変わりました。使用できるコントロールの数もかなり増えていますし、VBでは追加しなければ使えなかったコントロールが、すでに登録されています。

さらに、データベースへの接続や操作を行なう「データコントロール」がツールボックスから使えるようになっています。

また、ツールボックスは、固定表示以外に「自動的に隠す」表示モードを持っています(図1)。この表示モードにしておくと、必要なときだけツール

ボックスが表示されるようになるので、フォームの編集エリアを広く使うことができます。

## コントロールの配置

VBと同様、ツールボックスにあるコントロールのアイコンをクリックしフォームをクリック、またはコントロールをフォームまでドラッグ&ド

ロップして配置します。

Timerコントロールなど、プロセスのみを提供しプログラム実行時は非表示となるコントロール類は、VBでは他のコントロールと同様にフォームに配置されましたが、C#ではフォーム編集エリアの枠外に配置され、フォームのレイアウトに影響を与えないような配慮がなされています。

図1:「自動的に隠す」でエリアを広く使う

